



2026年5月25日

各 位

会 社 名 ASAHI EITO ホールディングス株式会社  
代 表 者 名 代表取締役会長兼社長 星 野 和 也  
グループCEO  
(コード 5341 東証スタンダード市場)  
問 合 せ 先 管理本部 経営管理部長 三 宅 久 史  
T E L (06)7777-2067

### (開示事項の経過) 新たな事業、暗号資産流動性提供事業のテスト運用結果と 同事業の拡大について

当社は、2026年4月10日付けで「(開示事項の経過) 新たな事業、暗号資産流動性提供事業実運用開始について」にて公表しましたとおり、暗号資産流動性提供事業の各種規約等を決定し、実際の運用を開始しておりましたが、その後、社内規定で取り決めを行ったツールの準備を行い、暗号資産流動性提供事業に必要な各種設定を終え、テスト運用を行って参りました。

テスト運用期間中、運用の実務を実証し、運用利回りについて一定期間の実績が得られた事から、同事業に対して本格的に取り組む事を下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

##### 1. テスト運用の結果について

当社は、日本円で約1,500万円相当の暗号資産を用いてテスト運用を実施し、2026年5月1日から5月19日までの運用期間において得られた暗号資産収益を、評価時点の時価に基づき日本円換算した結果、当社帰属分(手数料等控除後)で年率換算14.6%(暗号資産ベース)の利回りとなりました。

##### <テスト運用の諸条件について>

- ①通貨ペアの選択、流動性提供のレンジ幅に関して、比較的保守的と考えられる設定を行いました。
- ②当該期間においては、Uniswap上の流動性が昨年平均と比較して低い水準にありました。
- ③利回りの追及より、実務上の課題点の洗い出しと解決、リスク管理・権限分掌・承認・報告体制等の適切な管理体制の確認を軸としてテストを行いました。

上記のような環境下においても一定の利回り水準を確保する結果となりました。

(注1) 暗号資産ベースとは、暗号資産 (ETH 等) の数量ベースでの収益率を意味します。

(注2) 当該利回りは、短期間のテスト運用結果を年率換算したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

## 2. 本格運用の開始および方針

上記テスト結果を踏まえ、当社は暗号資産流動性提供事業について本格的に取り組むこととし、現在保有している暗号資産ソラナ (SOL) については、当該事業への活用を目的として売却した上、当該売却代金にてイーサリアム (ETH) を追加購入し、その総額を暗号資産流動性提供事業に使用いたします。また追加運用資金として、段階的に日本円ベースで総額約 3 億円規模の ETH を購入し、暗号資産流動性提供事業での運用を行います。

また、当社は、2025 年 11 月 21 日付「第三者割当による新株式、第 12 回新株予約権 (行使価額修正条項付)、第 13 回新株予約権及び第 1 回無担保普通社債 (少人数私募) の発行並びに新株予約権の買取契約の締結に関するお知らせ」において公表しております通り、トレジャリー事業に係る資金使途として暗号資産の取得・運用に最大約 26 億円 (2,682 百万円) を充当する計画としております。

当該計画に基づき、今後は市場環境および資金調達の進捗等を踏まえながら、段階的に運用規模を拡大していく方針です。

本格運用にあたっては、

- ① 一部通貨ペアの見直し
- ② 運用レンジの調整

を行い、目標利回りである年率 20% (暗号資産ベース) に近づける運用改善を図ってまいります。

また、運用規模の拡大に応じてリスク管理体制を強化しながら実施してまいります。

### 【参考情報】

・最大運用規模 (想定) : 約 26 億円 (段階的ではありますが、数ヵ月以内には約 3 億円規模の運用を行う予定です。)

・現段階での想定利回り : 約 14% 程度 (暗号資産ベース)、年間で約 3~4 億円規模の暗号資産増加に相当する可能性がある水準

### 【リスク等に関して】

・上記の現段階での想定利回り約 14% は 2026 年 5 月 1 日から 5 月 19 日までを運用期間として日本円で約 1,500 万円相当の暗号資産を用いたテスト運用の結果である単純な年率換算に基づく参考値であり、実際の収益を保証するものではありません。

・流動性提供における利回りは、取引量、市場環境、流動性状況、暗号資産価格の変動等により大きく変動します。

・暗号資産価格の変動により、日本円換算での収益額は変動する可能性があります。

・また、暗号資産流動性提供事業には、暗号資産価格の変動に加え、流動性提供に伴い保有資産の構成比率が変動することによる評価損失 (いわゆるインパーマネントロス) 等の特有のリスクが存在します。

## 4. 今後の体制

当社は、本事業に関し、外部専門家からの継続的支援助言の取得、法令および規制動向の確認、上場企業として求められる適切な内部管理体制および資産管理体制の維持、を前提として、慎重に運用を進めてまいります。

#### 5. 今後の見通し

当社は、暗号資産流動性提供事業の運用で得られた運用益については、適切な会計処理により、収益計上を行う予定です。本件が当社連結業績に与える影響につきましては、現時点では正確な算出が困難であり業績予想の修正は行っておりません。

これは、

①本事業に係る資金調達には新株予約権の行使に依存しており、その行使時期および調達規模が現時点で確定していないこと

②暗号資産流動性提供事業における利回りは市場環境等により変動するものであり、将来にわたって一定の収益水準が確定しているものではないこと

③現時点における運用はテストとして比較的少額で実施したものであり、当期連結業績に重要な影響を及ぼす規模には至っていないこと

等を総合的に勘案したものであります。

なお、暗号資産流動性提供事業の運用結果に関しては、今後も随時お知らせを行って参ります。

今後、業績に重要な影響を与えることが見込まれる場合には、速やかに開示いたします。

以 上